

◆登場人物

西園寺寿美(さいおんじ としみ)

笹錦利津子(ささにしきりつこ)

坂東緒理恵(ばんどう おりえ)

鳥居一男(とりい かずお)

舞台は1970年代。

新宿西口の寂れた劇場。

劇場の前説、鳥居一男が現れるとピンスポットが当たる。

鳥居

本日はお忙しい中、ご来場頂きまして、真にありがとうございます。
開演に先立ちまして、お客様にいくつかのお願いがございます。

携帯電話、携帯電話、携帯電話などの、音の出る携帯電話はあらかじめ電源をお切りくださいますよう、お願い申し上げます。

また、場内での飲食喫煙は禁止となっております。開演してからの飴、ガム、飴、ガム、飴、飴……飴の一つくらいいいでしょ、と鞆の中からそつと取り出すまではいいいのですが、開封の際のあのクシャクシャクシャクシャという包みの音。あの小さな音もこの小さな小さな劇場では大音量となり、他のお客様へのご迷惑となります。何卒ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

そして最後に、地震などによる非常時の際は、係の者が安全に誘導致しますので、慌てず、騒がず、テンパらず、どうぞその場に座ってお待ちください。

それでは……大変長らくお待たせいたしました。どうぞ拍手でお迎えください。我がムーンライトセレナーデ新宿座の看板娘による音曲漫才。「マーガレッツ」の登場です。

『春よ、こいこい』の音楽。

鳥居、退場。上手花道より坂東緒理恵、西園寺寿美、笹錦利津子の順でマーガレッツが登場。

漫才 1

♪春よこいこい 早くこい 恋もこいこい 早くこい

こいこい花札 猪鹿蝶 女は度胸で花咲かす

春よこいこい 早くこい 夢もこいこい 早くこい

濃いのは白粉 赤い紅 女は愛嬌で花咲かす

見上げれば 白い雲と青い月

まるであんたとあの女
だから私は 星になりたい

春よこいこい 早くこい 幸もこいこい 早くこい
花より団子さ 銭勘定 女は東京で花咲かす

緒理恵

えー、暑さ寒さも彼岸までなんて事を申しますが、これは、暑さは秋分まで、寒さは春分頃までには和らぎ、凌ぎやすくなるという意味なんだそうでございます。はてさて今年の冬は、そんな慣用句通り、素直に移り変わってくれるんでしょうか？空模様よりも複雑な乙女心でできております。マーガレッツ、ギターボーカル、あなたの坂東緒理恵でございます。

利津子

古い先輩芸人の方に聞いたお話なんですけどね、芸人つてのは芸に磨きがかかつて、かかつて、かかりきつた頃になると。舞台上上がつて、パツとその日の客層を見渡した瞬間に、お客様がどんな芸を求めているのかがわかるんだそうです。今日のお客様は浪曲が聞きたい感じだな、とか。今日のお客様は政治の話題を盛り込んだ風刺がいいかなつて感じで。えー………という訳で今日はバカのお話を一つ。

寿美

ちよつと、何てこと言ってるんだい。

利津子

マーガレッツ、アコーディオンボーカル、笹錦利津子でございます。

寿美

全く、のつけから失礼な事言ってるんじゃないよ。つたく。えー、本日はお忙しい中、ようこそおいでくださいました。短い時間ではございますが、最後までお付きあいくださいましたらコレ幸いです。マーガレッツ、リードボーカル、西園寺寿美でございます。

緒理恵

いやー、しかし姐さん、何ですわね。世間の皆さんが待ちに待ったニュースが、遂に飛び込んで参りましたね。

寿美

お、いいね、いいね。何だか景気の良さそうな話だね。一体どんなニュースが飛び込んできたんだい？

緒理恵

世界の人々が待ちに待っております、ベトナム戦争、終結。

寿美

は？

緒理恵

田中角栄先生のご尽力により、お隣中国との国交も正常化した今、アタクシはこれからの日本の、いや、ひいてはこのアジアの平和を願つ

てやまないであります。いいじゃないですか日本列島改造論。どうですか、皆さん。アタクシと共に、シユプレヒコールをあげようじゃありませんか。

堅い堅い堅い。堅いんだよアンタはいつも。いいかい？アタシたちは漫才しに出てきてるんだよ。青年の主張じゃないんだから、お客様にはもつと楽しいお話を提供しないか。

寿美姐さん、寿美姐さん、藪から棒になんだけど、アタイの夢を聞いてくれないかい？

ホントに藪から棒が出てきたね。

寿美
利津子
あのね、あのね、アタイの夢はね……。

緒理恵
ちよつと、何でのつけからりっちゃんの夢なんて聞かなきゃなんないのさ？

利津子
聞いておくれよ、おつかさん。

緒理恵
おつかさんじゃないわよ。

利津子
おとつあんからも言つてやつて。

寿美
おとつあんじゃないでしょ。

利津子
あん、いいから聞いてよも〜。

寿美
あくもう、うるさいな。いいよ、わかったよ。(お客に)すみませんね。すぐに済みますから聞いてもらつていいですか？ホラ、とつとと言つてみな、アンタの夢は？

利津子
アタイの夢は……うふ……このあいだの大相撲初場所です、横綱に昇進した琴櫻関と〜。

緒理恵
戦うの？

利津子
そうそう、まずは右にいなして状態を崩し、左前みつをとつてからのど輪っ！こつ、グツとググツと……オイッ！

寿美
のど輪つて何？

緒理恵
さあ。

利津子
違うでしょ。結婚よ、ケツコン。

二人
結婚？

利津子
皇太子明仁様と美智子様が出会つたと言われているあの軽井沢の、

白いチャペルで式を上げるの。

緒理恵 凄く喋るブタを油で揚げる？

利津子 そうそう、丸焼きだから皮はパリパリ、中はジューシー。ホラ、ここの噛んでみてつて……オイッ！やんのか、コラッ！

寿美 まあまあ、たかが夢の話じゃない。

利津子 たかがつて何よ、いつか現実になると信じてる夢なんです。

緒理恵 うは〜。りつちゃんが結婚を夢見てたなんて意外だわ。

寿美 そういふあんたはどうなの、緒理恵。

利津子 そうよ。緒理恵ちゃんに万年恋人がいなくてのはわかってるけど、理想の男性を夢見る事くらいはあるでしょ。

緒理恵 ちよつと、万年恋人がいなくてどういふ事よ。私だつて恋人の一人や二人くらい……。

寿美 あら、いるの？

緒理恵 え？

寿美 全然知らなかった。どこのどんな人なんだい。

緒理恵 ちよ……やだ、寿美姐さんまで。

利津子 顔は？有名人で言うところどんな感じ？

寿美 田中角栄？

緒理恵 そうそう、口癖がま〜しよの〜つてオイッ！りつちゃんじゃないんだから、やらせないでくださいよ。

利津子 似てない。田中角栄は、んまあ〜しよの〜……。

寿美 やんなくていいから。

緒理恵 今の誰？

利津子 生まれたての田中角栄。

寿美 もういいから。それで？緒理恵の彼は誰に似てんのさ。

緒理恵 う〜ん、そうですね……しいて言えば、城みちる？

寿美 あら、かわいいらしい感じじゃない。

緒理恵 からかわないでくださいよ。

利津子 いいじゃない、イクラに乗った少年。

緒理恵 イルカねっ！イクラに少年乗ったらイクラ潰れちゃうからっ！

利津子 はいはい、わかりました。じゃあ寿美姐さんの番ですよ。

寿美 え？

緒理恵 そうですよ。私たちばかり話させて、姐さんの話も聞かせてくださいよ。

寿美 ええっ？アタシはいいよ。

利津子 そんな照れなくてもいいじゃないですか。ねえ？

緒理恵 そうですよ、教えてくださいよ。

利津子 どの生命保険に加入してるんですか？

寿美 おいっ！

利津子 え？

寿美 え？じゃないよ。どうしてアタシだけ男の話じゃなくて生命保険の話なのさ。

緒理恵 だつて姐さん、いつも言ってるんじゃないですか。

利津子 恋はいつでも命がけ。

寿美 もういいよ。

『春よ、こいこい』の音楽。

暗転。

舞台はマーガレットの簡易楽屋。

上手には花道から舞台へと繋がる出入り口。センター奥には常楽屋へと続く通用口。通用口を挟んで上手側は早替えスペースで、カーテンが閉められる。逆の下手側は畳敷きの四畳半スペース。小さな火燵も持ち込まれ、雑然とした二人分の鏡前が備えられている。

舞台の一番下手の棚の上には電話。

楽器も無造作に置かれ、誰もいない楽屋で電話が鳴る。

通用口から笹錦利津子が慌てて、しかし周りを気にしつつ登場。

利津子

(受話器を上げ)もしもし、トリオさん？利津子よ。どうしたの？今どこにいるの？……え？私だ？……あ、なんだ、総支配人か？(怒鳴られる)ぬああつ、す、すみません。えーと、なんだつけ？……あ……んまあーしよのー、いつと言われましても、そういう事は寿美姐さんに聞いてもらわないと、(怒鳴られる)ぬああつすみません。……いやですから、私に聞かれても(怒鳴られる)いや……だから……うるせえんだよ、クソじじいっ！いつまでもケチくせえ事言ってるじゃねえよっ！天国行く前に地獄見せたらか、あん？ボケが。(切る)……あ、ウンやだ、やつちやつた。どうしよう。

坂東緒理恵が息せき切って登場。

緒理恵

電話っ！ハア、ハア、で、電話……誰からだった？

利津子

え？

緒理恵

今、鳴ってたでしょ？電話。

利津子

あ……総支配人。

緒理恵

総支配人？……なんだ。走って損した。

利津子

今週中にここを、明け渡せだつてさ。

緒理恵 え？はあ？ここって？この楽屋？え？冗談でしょ？

利津子 冗談って感じじゃなかったかな。

緒理恵 ちよつと何よそれ。じゃあ私達これからどうすんの。

利津子 知らないわよ。

緒理恵 きつとあいつよ。あのホラ、来週からレギュラーに抜擢された、ムード歌謡の『如月みどり』。あいつにここを渡す気なんだ。

利津子 かもね。

緒理恵 つたく、あのエロ総支配人め。あゝどうしよう。姐さんまた。パチンコかな？

利津子 さあ。

緒理恵 つたく、こんな時に……でもさ……男ってホントどうしてみんな、あもバカなのかしら？如月みどりなんかのどこがいいのよ。歌もアンアン、シユビドゥビ言ってるだけだしさ、色気も何もないじゃない、ねえ？

利津子 きつと上手なのよ。

緒理恵 どこがよ。あんな歌ならその辺歩いてる子の方がよっぽど上手よ。

利津子 そうじゃなくて、世渡りが。

緒理恵 え？

利津子 この世界、実力よりもそういう所が上手い人が伸びるでしょ？

緒理恵 ちよつと何落ち着いてわかったような事言ってるのよ？りつちゃんの所為でここを明け渡す期限が短くなったのよ。

利津子 機嫌をこじらせてね。

緒理恵 上手い事言つてごまかしてんじゃないわよ。どうすんのよ、楽屋が無くなったら、そのうちこの小屋のレギュラーからも外されちゃうかもしれないわ。

利津子 そうなつたらそうなつたで、仕方ないんじゃない？

緒理恵 え？

利津子 それが今の、アタイ達の実力って事でしょ。

緒理恵 どうしたの、りつちゃん。落ちてる鯖でも食べたの？

利津子 食べてないわよっ！

緒理恵 だってちよつと変よ。熱でもあるの？

利津子 触らないで。アタイはいたって正常よ。むしろクールよ。クール&ビューティー。いつまでもレギュラーでいられる訳じゃなし。マーガレッツもこころが潮時なんじゃないかな……なんてね。

緒理恵 ちよつと？ちよつとちよつとちよつと、突然どうしたのよ。

西園寺寿美、登場。

寿美 つたく、西口のパチンコ屋もシケてるわね〜。

緒理恵 あ、お帰りなさい。

寿美 新装開店のくせに15分で500円がパークだよ。飯食った？

緒理恵 いえ、まだ。

寿美 じゃあまたビーナスでナポリタンでも出前すつか。

緒理恵 あの姐さん。

寿美 ん？

緒理恵 ビーナスのママからツケがたまってるからそろそろ払ってくれって。

寿美 あ？何だよいきなり、そのウチ払うって言っついてよ。

緒理恵 そう言っただんですけど……年末に全部払う約束だったでしょって言われて。

寿美 あつそ……じゃあ今日はビーナスはやめつか。あ、蕎麦にすつか？
な？蓬庵（よもぎあん）ならまだツケが利くだろ？利津子、何にする？掻き揚げか？

利津子 ……。

火燵の上に置いてある目覚まし時計のアラームが鳴る。

アラーム音は「ゴンドラの唄」という曲。

寿美

あん？誰だよ、アラームいじったの。開演の10分前にセットしてあんだから。勝手にいぢんなって言うてあるだろ。

緒理恵

姐さん、やっぱり開演10分前から準備つてのは遅くないですか？せめて30分前には……。

寿美

いんだよ。(セットし直す)アタシはこれで25年やってきてるんだら。

緒理恵

はあ。

利津子が『ゴンドラの唄』をアコーデオンで弾き始める。

寿美

……どうした利津子。落ちてる鯖でも食べたのか？

利津子

食へてません！

緒理恵

なんか、ちよつと様子が変なんですよ。

寿美

ええ？何だ、変つて……はは、利津子は変じゃないよ。人より少し面白から、周りに注目されやすいだけなんだよ。な？

利津子

ふん。

寿美

こいつが初めてウチに来た時は驚いたよ。もう15年くらい前か？いきなりシミーズいっちょで楽屋に駆け込んで来て、「お願いですから助けてください」とつて。

緒理恵

(諫めるように)姐さん。

寿美

聞けばヤクザに追われてるつて言うからさ、逃げる先を間違えてるよつて言つてやっただよ。そしたらいきなり抱きついてきて、ピィーピィー泣いてき。

緒理恵

よしませうよ。その話、何度も聞きましたから。

寿美

そうだつて？……そつから弟子入りして、稽古つけてコンビ組んで。緒理恵が入つてトリオになつて……(ため息)もう10年か……長いようで、年月が経つのは早いもんだよ、ホント。

利津子

……出てけつて。

寿美

あん？

利津子

総支配人がこつから出てけつて。

緒理恵

ああ……さつき電話があつたみたで。楽屋明け渡せて、今週中に。

寿美

何バカな事言つてんだ。ヤなこった。

緒理恵

あーいやでも、それが……。

寿美

冗談じゃないよ。アタシが今までどんだけこの小屋に稼がせてやったと思つてんだい。

緒理恵

わかつてます。でも……。

寿美

ここはアタシが特別に作らせた、舞台に一番近い楽屋なんだよ。アタシがピンで歌つてた頃はね、一曲歌つて引っ込んで衣装を替えて、また一曲歌つて引っ込んで衣装を替えての繰り返し。ひっきりなしにそれが続くもんだから楽屋に戻る暇がなかったんだよ。だから……。

緒理恵

だから特別に、ここに楽屋を作らせたんですよ。はい、もう何度も聞きました。

寿美

じゃあ……わかるだろ？アタシの気持ち。

緒理恵

……はい……わかります。でも……。

寿美

でも？

利津子

……潮時なんですよ。

寿美

あん？

緒理恵

りつちゃん？

利津子

もうマーガレッツは……終わりの。

緒理恵

な……何言つてのよ、りつちゃん。そんな突然……。

利津子

突然じゃないわ。客席みれば一目瞭然でしょ。誰もアタイ達の漫才なんて見てないじゃない。出囃子が鳴った途端、トイレ休憩で立ち上がる人の背中見て、よく笑つてられるわね。

寿美

利津子？あんた正気で言つてんのかい？

緒理恵

姐さん、落ち着いて。

利津子

人氣が落ちたなんて見栄張るのも我慢がならないのよ。それつて所詮姐さんがピンでやつた頃の客が離れたつて事でしょ。マーガレッツにはそもそも客なんて一人もついてなかつたじゃない。

緒理恵

何言つてるの、一人いるじゃない。マーガレッツの大ファン、四谷で葬儀屋やつてる大和田さん。

利津子

あんなのただの変態じじいじゃない。この10年、ずっと楽屋口で出待ちして、オッパイ触らせろ、オッパイ触らせろって言ってるだけでしょ。あんな性欲の塊、客じゃないわ。

寿美

利津子っ！……偉そうにごたく並べんじゃないよ。そういうあんたは一体誰のおかげで借金返せてるんだい？毎日観にきてくれる、大和田さんや、その他のお客様のおかげだろうが。

利津子

姐さんのそういうキレイ事聞くのももうたくさん。

寿美

何だとコノヤロウ。

緒理恵

落ち着いてください、姐さん。りつちゃん、もうやめて。

利津子

言われなくてもアタイ……もう辞めるって決めたから。

緒理恵

……え？

寿美

利津子？

利津子

アタイ、今日限りで足を洗う事にしたの。

緒理恵

ウソでしょ。ちよつと突然なに言い出すのよ？

利津子

ごめんね緒理恵ちゃん。でもアタイ、簡単に決めた訳じゃないのよ。ずっとずっと、悩んで悩んで悩みあぐねた上で出した答えなの。

緒理恵

りつちゃん？

寿美

さてはあんた……借金全部、返し終わったね？

利津子

……ええ、先月で。

緒理恵

え？

寿美

は〜ん。ヤクザから匿ってあげて、少しずつ芸で頂いたお足で借金返して、用が済んだら、サヨナラってかい？

利津子

アタイの芸なんてハナからまやかしの。そんなの姐さんが一番わかってるでしょ。

寿美

言い訳はおよしよ。アタシだってあんたの安いキレイ事なんて聞きたかないさ。偉そうに理屈こねくり回して、結局は男だろ。

緒理恵

え？……え？そうなのりつちゃん。

利津子

……(土下座)長い間、お世話になりました。(立ち上がる)

緒理恵

ちよ、ちよつとりつちゃん、何言ってるのよ。待って。

寿美 止める事ないよ。バカな男にひつかかって出てくって言うてんだ。放っておきな。

緒理恵 でも……そんな突然辞めて、これから一体どうする気？

寿美 どうせまたストリップパーにでも舞い戻るんだろ。言っとくけど重力に完敗したあんたの裸なんて、もう誰も見たかないよ。

利津子 失礼な事言わないで。

寿美 失礼な身体して何言ってるんだい。

利津子 んんん……き……っ！心配してくれなくてもアタイ、ストリップにはもう戻りませんから……アタイは、堅気になるんです。

緒理恵 え？

寿美 はあ？……はは、てめえの事アタイなんて言うてる奴が、簡単に堅気になれるもんかい。

利津子 決めたんです。アタイ……じゃなくて、私、トリオさんと一緒になるつて。

緒理恵 トリオ……さん？

利津子 もう知ってるでしょ、劇場中で噂になってるもんね。副支配人の鳥居一男さん。彼の方から一緒に言うてきたの。彼の御実家、秋田で地主やってる言うし、だから……。

緒理恵 秋田？

寿美 利津子、残念だけどあんた、騙されてるよ。

利津子 え？……ちよつと、アタイの事悪く言うのは構わないけど、トリオさんの事悪く言ったらいくら姐さんでも承知しないよ。

寿美 はは、随分と威勢がいいじゃないか。でもね、トリオさんの実家は秋田なんかじゃない。

利津子 え？

寿美 更には地主でもない。

利津子 ええ？

緒理恵 (頷く)

寿美 あの人の……実家は群馬の山奥で養蚕やってるのよ。

二人
ええっ？

利津子
ヨウサン？

緒理恵
ウソでしょ？

寿美
ウソじゃないよ。ちっちゃいモスラみたいな何千匹も飼って、ピュッって口から綿吐かせて儲けてんのさ。

緒理恵
ウソよ。

寿美
だからウソじゃないって言ってるだろ。トリオさんの従兄の総支配人が言ってるだから間違いない。利津子、トリオさんはね、アンタと一緒になりたくて実家に誘ったんじゃないよ。モスラとチュウチュウやれる丈夫そうな女を探してるだけなんだ。

利津子
そんな訳ないでしょっ！……トリオさんは、トリオさんはアタイを愛してるって言ってくれたもの。

緒理恵
それ、聞き間違いじゃ……。

利津子
そこ聞き間違えてどうすんのよっ！トリオさんは言ってくれた。君のためなら何度だって叫んでみせる。百回でも二百回でもって。

寿美
ただで働く女手が手に入るなら、百や二百の愛してるなんて安いもんだよ。

利津子
姐さんの言う事なんて信じないわ。アタイわかってるんだから。姐さん、アタイがトリオさんを自分のモノにしてひがんでんだろ？

寿美
ふん……何バカな事言ってるんだい。

利津子
アタイ知ってるのよ。姐さんが昔、トリオさんといい仲だったって事。

緒理恵
はあああっ？

寿美
古い話を引っぱり出してくんじゃないよ。

利津子
トリオさん言ってた。姐さんには気をつけろって。

寿美
あん？

利津子
どつからどこまでがウソで、どつからどこまでがホントかわからない女だつて。

寿美
人聞きの悪い事言わないでくれ。

利津子
だつて姐さん、トリオさんと付き合ってた時、歳10もサバよんでたんでしょ？

緒理恵

10?それはもはやウソのレベルじゃなく詐欺なんじゃ……。

寿美

信じる方がバカなんだよ。

利津子

だからっ!……だからアタイ……姐さんじゃなくて、トリオさんを信じる事にしたの。(出て行くこうとする)

緒理恵

りっちゃん?

利津子

ごめんね、緒理恵ちゃん。アタイ、ビーンナスでトリオさんと待ち合わせしてるの。アタイたち、今夜の列車で発つから。

寿美

夜の舞台はどうすんだい?

利津子

……ごめんなさい。二人とも達者でね。(退場)

緒理恵

りっちゃんっ!……そんな……そんな……。

寿美

くっそ、あのアバズレ……緒理恵、塩だ塩、塩まくぞっ……塩……塩は?(塩がない)……ナシかないか、塩の代わりになるもの。ああもう、クソ、これでいいや(ティッシュを投げる)。利津子のバカ野郎、二度と戻ってくんじゃないよ。淫乱、売女、ブタ女っ!ひざにちよつとずつ水が溜まってるって知ってたんだよ。ヘソにカビが生えてきた女なんてあんたしかいないんだからねっ!二度と、二度とそのツラ見せんじやないよ、このオタシコナスっ!……あ、スッキリした。

投げたティッシュを拾う寿美。やっとな緒理恵の異変に気づく。

寿美

(ため息)いいのかい?

緒理恵

え?

寿美

トリオさん……このまんまだと、利津子に盗られちゃうよ。

緒理恵

え?いや……わ、わわわ、私はそんな……。

寿美

今更隠しても無駄だよ。顔に書いてある。アタクシもトリオさんの事が好きなのでありますっ。

緒理恵

え?……え?え?

寿美

あははは、あんたはホント真面目だね。そして一段と……ウブだ。

緒理恵

か、かか、からかわないでください。

寿美 からかつてなんかいさ。忠告してやっつてんだろ？

緒理恵 ……トリオさんは……トリオさんは私の初めての人なんです。

寿美 ……そう。

緒理恵 でも……でもりつちゃとトリオさんがそんな関係だなんて私全然知らなかったし。まさか……まさか姐さんまで。

寿美 アタシの話はよしとくれよ。もうずっとずっと昔の話だ。

緒理恵 でも、でも秋田の地主の話とか、養蚕の話とかも私全然知らなかったし……。

寿美 あんたには実家は何やってるって言った？

緒理恵 ハワイで牧場経営してるって。

寿美 (笑う) 愉快な男だね。そういうところがあの人の魅力だよ。……ホラ……何してんだよ。早く行きなつてば。

緒理恵 でも……でも私まで居なくなったら夜の舞台が……？

寿美 あん？……あんたまでキレイ事言う気かい？

緒理恵 だつて……。

寿美 この寿美姐さんを体のいい、言い訳のダシに使おうって魂胆だろ？

緒理恵 どういう意味ですか？

寿美 働いて働いて働いて、惚れてもない男と結婚して、ヨボヨボに歳とったあんたが言うんだよ。アタシには昔いい人がいたんだ。でもね、アタシには舞台があつたのさ。姐さん一人じゃ不憫でならなくてね。あの時、あの時姐さんさえいなければ……およよよ。なんて孫の代まで言われちゃ堪んないよ。

緒理恵 そんな事言いません。

寿美 いいや、言うよ、きつと。……あんたはこの先ずっと、これで良かったんだ、なんて安い台詞で、無理矢理自分で自分を慰めてやる人生を送るんだ。

緒理恵 そんな……。

寿美 そんな人生でいいのかい？

緒理恵 ……嫌です。

寿美 だったら……キレイ事なんて言っていないでもっと自分勝手に生きな
きゃ。それが女つてもんだろ？

緒理恵 姐さん。

寿美 アタシなら大丈夫。元々ピンでやってたんだ。どうにでもするさ。

緒理恵 でも……でも追いかけたところで私、どうすれば……りっちゃん相
手にどうやってトリオさんを取り戻せば……。

寿美 (火燵の上にあつた果物ナイフを手に取り)コレ、持っていきな。

緒理恵 え？

寿美 むこうさんに向けるも良し、自分に向けるも良し。どっちにしる道が
開けるよ、きつと。

緒理恵 ……(受け取り)ありがとうございます。(土下座)長い間、本当にお
世話になりました。(退場)利津子……、見とけオラァ。

寿美 ははは……恋はいつでも命がけ……か(ため息)もう大丈夫よ。

火燵の中から鳥居が登場。

鳥居 すまない寿美ちゃん。ちよつとした火遊びのつもりだったんだ。それが
……。

鳥居の口を塞ぎ、腰に手を回す寿美。

上手花道からこつそりと緒理恵が顔を出し、覗く。

寿美 もういいから。おかげでマーガレッツも片付いたし。新宿駅の東口の改
札で待ち合わせましょ。アタシもすぐに用意して後を追うわ。

鳥居 ああ……わかった。(退場)

同じく退場する緒理恵。

タバコに火をつけようとすが、マッチに火がつかない寿美。
ぼんやりと空を眺め、暗転。

二場

通用口から鳥居を引っぱり、緒理恵が登場。
上手花道へと連れていく。

鳥居　ちよつと……ちよつと、待って緒理恵ちゃん。何で？どこで俺が東口の改札にいるって知ったの？

緒理恵　黙って！何も言わなくていいから。何も言わないで私の言う通りにして。お願い。

鳥居　いやでも俺……。

緒理恵　いいから黙って！シャーラッピアンっ！

鳥居　シャーラッピアンっ！

緒理恵　トリオさんはね、今、二人の魔女に騙されてるのよ。

鳥居　魔女？

緒理恵　あなたは心が清いから気づいてないだけ。でも大丈夫よ。私が退治してあげる。私があなただを守ってあげるから、トリオさんはここに隠れてジッとして。

電話が鳴る。

緒理恵　はっ、隠れて。ああ……もとい。

鳥居　え？

緒理恵　(シヨールを取り、鳥居にかける)袖は冷えるから、温かくして。

鳥居　ああ……ありがとう。

緒理恵　トリオさんの事を本当にわかってるのは、私だけだからね。

寿美が慌ただしく登場。

花道に隠れる鳥居と緒理恵。緒理恵は顔を出し、中を伺っている。

寿美

(受話器を上げ)もしもし、トリオさん？東口の改札って言ったじゃないどこにいるの？……え？……なんだ……ビーナスのママか。(怒鳴られる)あーはいはい、ツケね。そのうちちゃんと耳揃えて返すから。今月いっぱい、今月いっぱい待ってよ、ね？お願い……え？違う？ツケの話じゃなくて？……はあ？利津子が？……利津子が店で暴れてるって……ああ(利津子が泣きながら出る)もしもし？利津子？あんた何してんのよ……は？ちよつと、泣いてちやわかんないわよ。もういいから……いいから早く帰ってきな。わかったかい？(切る)ったく。

緒理恵

りっちゃんですか？

寿美

緒理恵？……あんた、何でここにいるの？あんたもビーナスに行ったんじゃないの？

緒理恵

ええ……そうしようと思ったんですけど、ちよつと忘れ物に気づいて。

寿美

忘れ物って？

緒理恵

ええ……ちよつと。

寿美

何だよ緒理恵、アタシの事なら気にしなくていいって言ったろ。

緒理恵

(深呼吸)いざ、魔女狩りっ！

寿美

あ？

緒理恵

姐さん……姐さんこそ、そんな荷物まとめて、どこか旅にでも出られるんですか？

寿美

ああコレ？……これはその。ちよつと質屋に行つて金に替えられるものでもないかと思つてさ。

緒理恵

姐さん、質屋なんて行かれるんですか？

寿美

え？ああ、まあ……。

緒理恵

私達には、お客様からの贈り物を金に替えるなんざ外道のする事だよつて言つたのに？

寿美

こ、これは客からの贈り物じゃない。全部アタシの持ちもんだから。

緒理恵

へー、じゃあちよつと中、見せてもらつてもいいですか？

寿美

何バカな事言つてんだい。

緒理恵

駅の東口改札で見かけましたよ。

寿美 え？

緒理恵 まるで乙女のように頬を赤らめて、駆けていらっしやいましたね？

寿美 ……。

緒理恵 誰かイイ人とお待ち合わせでもしているかのようにでしたよ。

寿美 ……どこまで見てたんだい？

緒理恵 とても最後までは見えていられませんでした。見てはいけないものを見てしまうようで……。

寿美 そう……なら仕方がない。緒理恵、あんたには本当の事を教えてあげる。

緒理恵 結構ですつ！私は姐さんが……姐さんが総支配人と逢い引きされてたなんて話、聞きたくありません。

寿美 ……え？総支配人？

花道奥から何か物が落ちる音。

寿美 あ？

緒理恵 (慌てて、でも鳥居に聞こえるように) ああ、私……私ずっと前から知ってました。姐さんが総支配人とそういう関係なんだって。でも最近別れて、総支配人が如月みどりとくつついちやつたもんだから、楽屋を明け渡せって言って来たんですよね？

寿美 はあ？

緒理恵 あああ、ごめんなさい。私。ペラ。ペラと……でも姐さんに言いづらい話なんてさせたくなくて。

寿美 何言ってるの緒理恵、アタシは……。

緒理恵 姐さんは悪くないつ！姐さんはただ、この楽屋を明け渡さなくてもいいようにまたあのエロ総支配人と寄りを戻そうっていう、ただそれだけの、それだけの魂胆なんですよね？

再び花道奥で物が落ちる音がする。

寿美 ちよつと何の音？

緒理恵 (花道奥)うるせえぞ大道具っ！……ハア、ハア、ハア。

寿美 どうしたの緒理恵？アンタ少しオカシイよ。

緒理恵 オカシイのは姐さんの方です。たかが楽屋の一つや二つの為に好きでもない男に体を売るなんて。芸の為なら女を捨てろって、そういう意味だつたんですか？

寿美 バカな事言つてんじゃないよ。一体誰がそんな大ボラ吹いてんだい？
緒理恵 そんなの決まつてるじゃないですか。……りっちゃんです。

利津子、泣きながら登場。

利津子 あはあゝん、姐さゝん。寿美姐さゝん。聞いてよ、アタイね。

寿美 (利津子にビンタ)

利津子 え？

寿美 利津子、あんたアタシに何の恨みがあるんだい。

利津子 な、何で突然ひっぱたかれたの？

寿美 とぼけたつて無駄だよ。てめえの胸に手え当てて、やましい事がないか考えてごらん。

利津子 何よ突然。(胸に手を当てて)やましい事だらけでわかんないし。(緒理恵に)姐さんどうしたの？

緒理恵 (再び大声)りっちゃんこそどうしたの？ビーナスで暴れてたみたいだけど。

利津子 ああ……ちよつと……。

緒理恵 持病の毛ジラミが疼いたの？

利津子 誰が毛ジラミよっ！

緒理恵 あ、ごめんクラミジアか。

利津子 緒理恵ちゃん？

もはやとどめのような物音が花道奥でする。

利津子
え？え？何？

緒理恵
あゝ……はは、ちよつと衝撃が強かったみたい。でも大丈夫。これで一
件落着。

利津子
何よそれ。ねえ、そんな事より聞いてよ。トリオさんたら酷いよ。時
間になつても現れないからアパートに電話をしてみたの。そしたら……
…そしたら一体誰が出たと思う？

寿美
え？

緒理恵
え？誰か出たの？え、誰？誰が出たっていうの？

利津子
(モノマネ)はあゝい、もしもすいゝ、鳥居でございまあゝす。

緒理恵
……ウソ。

寿美
まさか……如月みどり？

利津子
アタイ、自分の耳がどうかなくなっちゃったのかと思つたわ。でも何度聞
き返しても、鳥居でございまあゝすつて。だからもうカーゝとなつち
やつてさ。ビーナスのママには悪いけど、手当たり次第そこからモノ
ぶん投げちゃつた。

緒理恵
ウソよつ！トリオさんがそんな、如月みどりとそんな……。

利津子
それがウソじゃないのよ。何ならそこから電話してみるといいわ。あの
甘つたるい蜂蜜が絡まつたような声がタダで聞けるわよ。

緒理恵
(受話器に飛びつく)

利津子
え？……え、ホントにかけるの？ちよつと待つて、電話番号はね、えつ
と……。 (電話帳を探す)

緒理恵は当然のように鳥居の家の番号を暗記していてダイヤルをまわす。

利津子
ちよつと、どこにかける気、緒理恵ちゃん。あんたトリオさんこの番
号知らないでしょ。

寿美
よしな緒理恵。(受話器を取ろうとする)

緒理恵 放してください姐さん。お願い、放してっ！

寿美 緒理恵っ！（奪う）

緒理恵 だつてそんな……そんな……。 （泣き崩れる）

利津子 なに？……どうしたの？

寿美 なんでもない。アタシ、ちよつと出てくるよ。

利津子 どこに行くんですか？

寿美 総支配人のところ。それからトリオさんのアパートに電話かけて、如

月みどりが出たら、ここを明け渡さなくても済むかもしれないだろ。

利津子 さすが姐さん……ああ、あのっ！……偉そうな事言つて出てっただけ
ど、アタイ、またここに戻つて来てもいい？

寿美 ふん……あんたこれで何度目だい？

利津子 それは言わないで。

寿美 ……好きにしな。（退場）

利津子 ありがとうございます。……あーあ、なんでこうも男運が悪いかな？
今回は絶対に大丈夫だと思つたのに。

アコーディオンで『ゴンドラの唄』を弾き始める。

緒理恵 諦めるの？

利津子 え？

緒理恵 トリオさんの事。

利津子 うーん……わかんない。

緒理恵 どうして？酷い騙され方したんでしょ？

利津子 そうだけど。

緒理恵 明日から一体、どんな顔して会えばいいの？

利津子 だからわかんないわよ。顔見たら、自分でもどんな気持ちになるか
予想もつかないもの。

緒理恵 ……そう。

利津子 意外？

緒理恵 え？

利津子 アタイが一人の男にこんなに熱上げるなんて、意外？

緒理恵 ……りっちゃんはいつもそうじゃない。

利津子 あん、いつもは違うわ。もつとサバサバしてるもの。

緒理恵 一緒よ。いつもネチネチしてるわ。

利津子 サバサバよ。

緒理恵 ネチネチ。

利津子 サバサバ。

緒理恵 ネチネチ。

利津子 サバサバ。

緒理恵 ネチネチ。

利津子 してない。

緒理恵 してます。

利津子 あ〜じゃあ、あれだ。緒理恵ちゃんの言うところのネチネチが、アタイにとつてのサバサバって事ね？

緒理恵 どういう事？

利津子 ふふふ。恋の法則は十人十色って事よ。

緒理恵 え？ごめん……りっちゃん、落ちてる鯖……。

利津子 食べてないからっ！……恋には法則なんてない、人それぞれ、感じ方が違うって事よ。

利津子 人それぞれ……。

再び『ゴンドラの唄』を弾き始める利津子。

その伴奏に合わせて、緒理恵が歌う。

♪いのちみじかし 恋せよおとめ
あかきくちびる あせぬまに
熱き血潮の 冷えぬまに
あすの月日の ないものを

微笑み合う二人。

緒理恵 ……りっちゃん。

利津子 ん？

緒理恵 私ね、ソロで歌手デビューしなかつて言われてるの。

利津子 うふふ……知ってる。ビーナスでレコード会社の人と話してるの見たわ。いい話じゃない。それで？挑戦するの？

緒理恵 ……うん。

利津子 そう。緒理恵ちゃんならきつと成功するわ。頑張つて

緒理恵 ありがとう。

少しの間。

緒理恵 私ね……寝たの。総支配人と。

利津子 ……知ってるよ。

緒理恵 ……そう……なんでも知ってるのね。

利津子 壁に耳あり障子に目あり。こういう劇場は、芸能界の縮図みたいな所だから、そういう事しないと上にはなかなか……ね。

緒理恵 じゃあこれは知ってる？

利津子 何？

緒理恵 トリオさんが今日、本当は寿美姐さんと高飛びしようとしてたって事。

利津子 ……え？。

緒理恵 見ちゃったのよね。偶然。りっちゃんが出てった後。ここでトリオさんが姐さんと抱き合ってたさ……。

利津子 ウソよ。

緒理恵 ウソじゃないわ。その証拠にトリオさんビーナスには現れなかったでしょ。姐さんも、マーガレットもこれで片付いたって言ってたし。あ、じゃあ姐さんも知ってるのかな、私がソロでデビューするって。

利津子 ……。

緒理恵 あれ？りっちゃん？あ、そうか、りっちゃんはまたストリップ劇場に戻るんだもんね。いや、大変だな。風邪とかひかないようにね。

利津子 なんだとこの野郎。

取っ組み合いが始まる。

緒理恵 私はホントの事言っただけよ。

利津子 信じる訳ないでしょ、そんな話。

緒理恵 好きにすればいいわ。でもね、今頃トリオさんと手を取り合ってるのは寿美姐さんよ。

利津子 まだ言うか、コノ！死ぬ、のど輪だ、のど輪っ！……のど……（逆にやられる）うっ、苦しい……苦しい、ゴメン、ちよつとタンマ、タンマ。

緒理恵 ハア、ハア……恨む相手間違えてんじゃない？姐さん、東口の改札で待ち合わせだつて言ってた。いいの？りっちゃん。このまま一人が消えちゃったら、ホントに泣き寝入りになっちゃうよ。

利津子 そんな事言われてもアタイ……アタイ、姐さんには凄い世話になってるし、それに……それにそんなの……そんなの信じられない。（泣き崩れる）

緒理恵 （果物ナイフを渡す）

利津子 え？

緒理恵 ……裁判沙汰になったら証言したげる。りっちゃんは何も悪くない、悪いのは全部寿美姐さんだつて。

利津子 ……緒理恵ちゃん。

緒理恵 りっちゃん……キレイ事なんて言っていないでもっと自分勝手に生きな
きゃ。それが女つてもんでしょ？

利津子 (受け取り) …… …… ……見てろ寿美いっ！(退場)

緒理恵 トリオさん。聞いてたでしょ？私が総支配人と寝たって言った時は物
音一つたてなかったわね……シヨックだった？でも、でもあなたが初め
ての人っていうのは本当よ。初めて心から愛せる人なの。それは本当
よ、信じて。

鳥居が上手花道から姿を現す。

鳥居 緒理恵(おりえ)ちゃん。俺……。

緒理恵 大丈夫。私がしっかり稼ぐから。心配しないで、歌手デビュー果たし
たらちゃんと総支配人とも縁をきるわ。だから……。 (鳥居の胸に
飛び込む)一緒に暮らそう、ね？

利津子が通用口から顔を出す。

鳥居 しかし……。

緒理恵 お願いつ！私にはあなたしかないの。……私のアパートで待ってて。
炊事場で芋をふかしたの。すぐに届けるから先に行つてて。

鳥居 ……わかった。(退場)

同じく退場する利津子。

マラカス、アコーデオンの、ギターを寄せ、それを眺め、むせび泣く緒理恵。

暗転。

三場

ガランと、誰もいなくなった楽屋。
遠くから利津子の声がする。

利津子(声)

トリオさん待つて、何で逃げるの?……トリオさん、トリオさーん。

上手花道から鳥居が登場する。何かに怯えている様子。

鳥居

ハア、ハア、ハア……何で?どうしてりっちゃんが緒理恵ちゃんのアパートにいたんだ?なんか今日は、おかしいな……。

利津子(声)

トリオさん?トリオさんどこーっ?

鳥居が早替えスペースに隠れ、カーテンを閉める。

片手に包丁を持つ利津子登場。

利津子

トリオさんっ!……どうして逃げるのよ?アタイが嫌い?あんなに愛してるつて言ってくれたじゃない。……あー、ふふふ、トリオさんの匂いがする。大丈夫よ、トリオさん。アタイがちゃんと、決着つけるから。

電話が鳴る。

緒理恵が利津子にも気づかず、飛び込んでくる。

緒理恵

(受話器を上げ)もしもしトリオさん?どこにいるの。私のアパートにいてつて言ったじゃない……え?……オッパイ触らせろ?……うああああーっ!(切る)何で?どうして大和田さんが楽屋の番号知ってるのよ?

利津子

アタイが教えたの。

緒理恵

りっちゃん?……どうして?

利津子 ちよつと確かめたい事があつたから。

理恵 確かめたいこと？

利津子 だから緒理恵ちゃんが楽屋口に入ったら、向かいの公衆電話から電話してくれて、あの工口親父に頼んだの。

緒理恵 な……何よ？確かめたいことって？

利津子 (ため息)なんで早く気づかなかつたんだろう。思い起せば緒理恵ちゃん、その電話が鳴ると、いつも必ずビクツてなつてもんね。それでアタイが電話とると必ず「誰からだつた？誰からだつた？」つて必死になつて聞いてきて。

緒理恵 な、なんの話？それよりどうしたの、りっちゃん？トリオさん、駅の東口にいなかった？

利津子 ふふふ……何その三文芝居。

緒理恵 さ……三文芝居って？

利津子 居たわよ。

緒理恵 え？

利津子 トリオさん。東口の改札じゃなくて、別の所に居たわ。

緒理恵 そ……そう……へ。

利津子 へ。

緒理恵 ？

利津子 どこまでもシラきる気なんだ。楽しかった？アタイ一人笑ひ者にして。

緒理恵 ……何の事？緒理恵ちゃん、なんか変だよ。

利津子 変なのは生まれつきよっ！変人、変態、扁平足の笹錦利津子ったら町内でも有名だつたの。昔っからどこにいてもオミソで。鬼ごっこやれぱずつと鬼。かくれんぼやつてもずつと鬼。小学校の学芸会で四谷怪談やった時だつて、当然のように小岩さんやらされて、お皿の数数えてたら最前列で見たお婆ちゃんが本物が出たつて泡吹いちやつたのよっ！……アタイはいつだつて、ただ、ただ一生懸命やつてるだけなのに。みんなアタイの事、変だ、変だつて……。

寿美が戻ってくる。

寿美　　つたく……総支配人たら全然話しにならないよ。利津子っ！ 如月みどり、ホントにトリオさんの部屋にいたんだろ〜ね？

利津子　でもね……でも姐さんだけは違ったの。

寿美　　あ？……如月みどりだよ。総支配人ところから電話したら誰も出なかったの。

利津子　姐さんだけは私の事面白いて、お前は人より少し面白からみんなが放つとかないんだ。だからお前は商品になるって言ってくれて。

寿美　　何の話してんだい？アタシが聞いてるのは如月みどりが今どこに……。

電話が鳴る。

利津子も反応するが、寿美が受話器を奪う。

寿美　　もしもしトリオさん？今どこ？どこにいるの？……え？……お前の頭の中はオッパイしかないのかっ！死ねっ！（切る）

変な空気が流れる。

利津子　（緒理恵に）電話は二度鳴らしてって言ったの。ふふふ……な〜に、今の。（寿美を真似て）もしもしトリオさん？今どこ？どこにいるの？……はは、おつかしくんだ。寿美姐さんともあろうお方が、あんなに慌てて（寿美を真似て）もしもしトリオさん？今どこ？どこにいるの？……ぬははは、必死になっちゃて。

緒理恵　よしなよ。

利津子　緒理恵ちゃんなんでもっと凄かったよね。（緒理恵を真似て）もしもしトリオさん？どこにいるの。私のアパートにいてって言ったじゃない。……あつはははは、ちゃんちゃら、ちゃんちゃらおかしい、あははは。

利津子の胸ぐらに掴みかかる寿美。

緒理恵 姐さん落ち着いて、落ち着いてください。

利津子 殴りたきゃ殴ればいいでしょっ！二人だつてこうやって、こうやってアタイの事見て笑つてたくせに。

緒理恵 笑つてないから。

利津子 ウソよ。笑つてた。だから笑い返してやるの、あははははっ！

寿美 コノヤロウ。

緒理恵 姐さん、後生だから、後生だから堪忍してください。(と言いつつ、寿美を蹴る)

寿美 どいてな緒理恵、緒理恵は……痛い痛い、誰？蹴るのは。

利津子 よそ見してんじやないわよ。いくら、いくら姐さんでも、こればっかりは譲れないんだから。

緒理恵 りつちゃんもお願いだから落ち着いて。(と言いつつ、利津子を蹴る)

利津子 あんたすっ込んでなさいよ。痛い痛い、え？え？。

緒理恵 このっ……この……あっ！

寿美 緒理恵っ！

緒理恵 ち、違うんです。私はそんな……。

利津子 待てコラっ！

緒理恵 うぐっ。

利津子 (緒理恵の首を締め)あなたつていつもそうよね。影に隠れてコンコンソソソ。うぐっ。

寿美 (利津子の首を締め)そういうあんたはどくなのよ。女ならもつと控えめになりなさいつていつも言ってるでしょ。

緒理恵が首を絞められながら、孫の手を取り、最後方の寿美を殴る。

寿美

痛い痛い痛い。

三人バランスが崩れ、倒れる。
そこへ電話が鳴る。

三人、目も当てられないほどの醜い争いで電話を取り合う攻防。
電話が切れる。
ぐったりする二人。

利津子

ハア、ハア、ハア……姐さん……もうとつくの昔に別れたって言ってたじやないですか。あれは……あれは嘘だったの？

寿美

嘘じゃないわよ。

緒理恵

だったら……。

寿美

昔別れてまた最近ヨリ戻したのよ、悪い？

利津子

最近っていつ？

寿美

おととい？

二人

おととい？

緒理恵

そんなの付き合ってるウチに入りませんよ。

寿美

うるさいんだよ、これまでも色々ひついたり離れたりあった上での交際なんだ。

電話が鳴る。

再び醜い攻防。

電話が切れる。

利津子

チキショーっ！

緒理恵

……お願いします。(土下座)身を引いてください。

寿美

はあ？

利津子

なに言ってるの？

緒理恵

お願いします。トリオさんを愛してるなら、私に……私に任せてください。

寿美 何？あんたならトリオさんを幸せにできるって言うの？

利津子 ソロでデビューするからっていい気になってんじゃね〜ぞ。

緒理恵 いい気になってない。私は……私はトリオさんの為にデビューするんです。

寿美 はあ？

緒理恵 トリオさんを幸せにするには仕事がないや、稼がないやならないでしょ？りっちゃんのストリップで月いくら稼げるの？姐さんは？姐さん一人になって何をするんですか？まさかまた一人で歌う気ですか？はんつ、あんたよりマシな歌うたってみせらあ。

緒理恵 そんな甘い世界じゃないって教えてくれたのは、姐さんでしょ。トリオ

さんは、私ちゃんと食べさせます。命がけで、命がけ守ります。だから……。

利津子 何偉そうに上からモノ言ってるのよ。自分だつて総支配人に体売ったからデビューできるんですよ。

緒理恵 そんな言い方よして。

利津子 アタイのストリップと一緒じゃない。

緒理恵 一緒じゃない。

利津子 一緒よ。自分だけ清潔なフリすんのやめてくんない？

緒理恵 私は……私は生活に困って身体を売ったんじゃない。私はただトリオさんと一緒にになりたい一心で……。

寿美 言い訳にしか聞こえないね。そんな不潔な稼ぎでトリオさんが喜ぶとは思えないけど。

緒理恵 私とトリオさんの関係は清潔です。

利津子 どうだか。アタイのクラミジア、元々は緒理恵ちゃんのモノなんじゃないの？

緒理恵 なんですって、もういつへん言ってみなさいよっ！

電話が鳴る。

みたび攻防。

しかし今度は途中で利津子が持っていた包丁を取り出し、騒ぎが収まる。

緒理恵が受話器を上げ、切る。

利津子

もう……終わりにしましょう。

緒理恵

りつちゃんストップ、落ち着いて。

寿美

大丈夫よ。こいつにそんな度胸ありやしないわ。

利津子

そう思うんなら試してみる？

果物包丁のサヤを引き抜くと、真っ赤に染まった刃がのぞく。

緒理恵

え？……それ、どうしたの？……まさか、血……？

利津子

命がけつてのは、こういうのを言うのよ。姐さんさつき、総支配人の部屋からトリオさんの部屋に電話したら誰も出なかったって言ったでしょ？……何でだと思っ？

寿美

あんたまさか……如月みどり……。

利津子

驚いてたわよ、あの女。目え白黒させちゃって……ふふふ。あんな女アタイにとっちゃどうでもいいからさ、一思いにブスツと殺れちゃったんだけど……でも姐さん達は違うわ。長い時間、同じ釜の飯を一緒に食べてきた仲だもんね。だから少しだけ気がひける。

寿美

ふ、ふざけんじゃないよっ！（緒理恵を盾にする）

緒理恵

ちよちよちよ、姐さん。タンマ、タンマ。

寿美

あんた、誰のおかげで今があると思ってるんだい？誰のおかげで借金返す事ができたんだいっ！

利津子

そんな大きな声出さないで、大丈夫だから。痛いのはほんの一瞬よ。

緒理恵

た、助けてっ！

電話が「チン」とだけ鳴る。

一瞬間のできた利津子の手をとる寿美。

利津子

あつ。

緒理恵

姐さん？

利津子

放せ……放せこの！

緒理恵も加勢し、利津子から包丁を奪う寿美。

寿美

オラァー！……ハア、ハア、ハア。

緒理恵

やりましたね、姐さん。オイ、覚悟しろ利津子。

緒理恵に包丁を向ける寿美。

緒理恵

え？姐さん？

寿美

……大丈夫。安心して。アタシは……アタシは二人だけで逝かせやしないから。

利津子

え？

寿美

だつてアタシ達はトリオじゃない。どんな時も、いつだつて一緒だった。泣いたり、笑ったり……大変だつたけど、すごく楽しかった。なのに……あんな男の所為で……あんな男の所為でアタシ達が、この時間が終わっちゃうのは何かシヤクじゃない。だつたらこの手でさ……。

緒理恵

な……何言ってるんですか、姐さん。

寿美

いいじゃん。こういう結末も悪くないわ。二人とも、天国でもまた一緒にバカやろうね。。。

時計のアラーム「ゴンドラの唄」が鳴る。

緒理恵

ちょっと待って……待ってください。ウソでしょ？

通用口の方へ逃げ出す緒理恵。しかし捕まる。

緒理恵

いやっ、お願いです、放してっ！放して姐さん……。

寿美 バイバイ、緒理恵。(刺す)

緒理恵 ううっ！……そんな……トリオさん……トリオ。(崩れ倒れる)

下手側、逃げ場のないところで叫ぶ利津子。

利津子

いやあああゝっ……姐さんごめんなさい。ウソなんです。アタイ、アタイ、ウソついたんです。ちよつと二人を驚かせようと思つて。如月みどりも殺してません。その血も……その血も小道具置き場から借りてきた血糊で……。

寿美

利津子。あんたは変じゃない。人より少し面白いだけなんだ。

利津子

助けて……お願い。

寿美

(刺す)バイバイ、利津子。

利津子

ううっ！そんなのないよ……トリオさん、助けて……。 (崩れ倒れる)

火燧に倒れ込む事で時計のアラームが切れる。

恐怖におののき、早替えスペースから出てくる鳥居。

鳥居

寿美ちゃん。

寿美

……トリオさん。そんな所にいたの？

鳥居

(倒れている二人を見て)なんて事を……。

寿美

トリオさん、女って面白いでしょ？色んな女がいて。でもね……大好きだったのよ。みんな、命がけであなたの事を愛してたの。それだけは信じてあげて。じゃあ……バイバイ。(自決)

鳥居

うああああああつ！……ああ……ああ……ああ……あああゝっ！

緒理恵を見て、寿美も見て、動揺しまくって通用口から逃げてゆく鳥居。
電話が鳴る。

三回ベルが鳴ったところで寿美がムクリと起き上がる。

寿美

(受話器を上げ)もしもし……ええ、今終わったわ。つたく、そんなに何度も何度も電話してこないでよ。最初のウチはいいタイミングだったけど、後半は無駄に疲れちゃったわ。え?……大丈夫よ。これで当分火遊びはしないでしょ。

利津子、緒理恵も起き上がる。

それより約束よ。ビーナスのツケの払いと、出待ちしてる四谷の大和田さん、何とかしてよね。それと、ここの改装も頼むわ……よろしくは〜い。(切る)

利津子

総支配人?

寿美

ええ。でも大変よね。女癖の悪い従兄なんて預かって。

緒理恵

貴重な休憩時間をどうしてくれるんですか?

利津子

ホントよ。如月みどりに手えつけられたからって、何でアタイ達が仕返しの道具に使われなきゃなんないのさ?

寿美

いいじゃないか。おかげで問題がいつへんに片付いたんだ。一石二鳥……いや、一石三鳥か?

利津子

でもトリオさん、凄いや顔になってたわよ。うあああ……。

緒理恵

いいのよ、あんな男。これでも少し生温いくらいだわ。

寿美

おつ、流石。つい最近まで本当に付き合ってたっただけあって、手厳しいわね。

利津子

本当に初めての人だったの?

緒理恵

冗談はよして。

寿美

ははは……命がけの恋してもんがど〜ゆ〜もんか、教えてやったんだよね?

緒理恵

そ〜ゆ〜事です。

『春よ、こころ』の音楽。

暗転。

(録音?) ♪ 春よこいこい 早くこい 恋もこいこい 早くこい

こいこい花札 猪鹿蝶 女は度胸で花咲かす

春よこいこい 早くこい 夢もこいこい 早くこい

濃いのは白粉 赤い紅 女は愛嬌で花咲かす

見上げれば 白い雲と青い月

まるであんたとあの女

だから私は 星になりたい

春よこいこい 早くこい 幸もこいこい 早くこい

花より団子さ 銭勘定 女は東京で花咲かす

緒理恵

えー、暑さ寒さも彼岸までなんて事を申しますが、これは、暑さは秋分まで、寒さは春分頃までには和らぎ、凌ぎやすくなるという意味なんだそうでございます。はてさて今年の冬は、そんな慣用句通り、素直に移り変わってくれるんでしょうか？空模様よりも複雑な乙女心でできております。マーガレッツ、ギターボーカル、あなたの坂東緒理恵でございます。

利津子

古い先輩芸人の方に聞いたお話なんですけどね、芸人つてのは芸に磨きがかかって、かかって、かかりきった頃になると。舞台上が上がって、パソとその日の客層を見渡した瞬間に、お客様がどんな芸を求めているのかがわかるんだそうです。今日のお客様は浪曲が聞きたい感じだな、とか。今日のお客様は政治の話題を盛り込んだ風刺がいいかなって感じで。えー……という訳で今夜はオゲレッツなお話を一つ。

寿美

ちよつと、何てこと言ってんだい。

利津子

マーガレッツ、アコーディオンボーカル、笹錦利津子でございます。

寿美

全く、のつけから失礼な事言ってんじゃないよ。つたく。えー、本日はお忙しい中、ようこそおいでくださいました。短い時間ではございますますが、最後までお付きあいくださいましたらコレ幸いです。マーガレッツ、リードボーカル、西園寺寿美でございます。

緒理恵

いやー、しかし姐さん、何ですな。世間の皆さんが待ちに待ったニュースが、遂に飛び込んで参りましたね。

寿美

ベトナム戦争の話ならもういいよ？

緒理恵

違いますよ。もつとパーツと、パーツと明るくなるようなニュースです。

寿美

ホントかい？

緒理恵

なんてたつてめでたいお話ですから。

寿美

いいね、いいね。今度こそ景気の良さそうな話だ。一体どんなニュースが飛び込んできたんだい？

緒理恵

江崎玲於奈さん、ノーベル物理学賞、受賞。

寿美

は？

緒理恵

これはもう、ビックリですよ。江崎博士はなんと、あの半導体のトンネル効果の発見によるトンネル・ダイオードの発明と、トランジスタの原理となる半導体のエネルギー・ギャップが超伝導下でも存在することを確かめたんです。その成果が評価され受賞に至ったのであります。当然皆さんご存知ですよ。

寿美

知らないよ！

緒理恵

ええっ？

寿美

ええっじゃないよ。何だよ、半導体トンネル何とかって。

緒理恵

姐さんまさか、あの半導体トンネル効果を知らないんですか？

寿美

だから知らないって言うてるだろ。

緒理恵

皆さんとつくにご存知の。

寿美

ご存知じゃないっての。もう堅い堅い堅い。堅いんだよアンタはいつも。いいかい？アタシたちは漫才しに出てきてるんだよ。青年の主張じゃないんだから、お客様にはもつと楽しいお話を……。

利津子

寿美姐さん、寿美姐さん、藪から棒になんだけど、アタイの夢を聞いてくれないかい？

寿美

(ため息)どうせ止めたつて話すんだろ。

利津子

あのね、あのね、アタイの夢はね……。

緒理恵

ちよつと、何でのつけからりつちちゃんの夢なんて聞かなきゃなんないのさ？

利津子 聞いておくれよ、おつかさん。

緒理恵 だからおつかさんじゃないわよ。

利津子 おとつつあんからも……。。

寿美 おとつつあんじゃないって言うてるでしょ。

利津子 あん、いいから聞いてよもー。

寿美 あくもう、うるさいな。いいよ、わかったよ。(お客に)すみませんね。すぐに済みますから聞いてもらっていいですか？ホラ、とつとつと言ってみな、アンタの夢は？

利津子 アタイの夢はね……。うふ……。この間の、ボクシングのタイトルマッチで世界チャンピオンになったり、柴田国明さんと……。

緒理恵 戦うの？

利津子 そうそう、まずは左右に振っておいて、ガラ空きになったボディーにマシガンパンチ。こう、マシガンパンチ……。オイッ！早く止めてよ。

寿美 だつてノッテルから。

利津子 そりゃノルでしょうよ、ノリ突つ込みなんですから。違うでしょ。結婚よ、ケツコン。

二人 結婚？

利津子 アタイの夢は、純白のドレスを着たお嫁さん。

緒理恵 しつぽくのソースをかけたお猿さん？

利津子 そうそう、ウキッ、ウキキ。オイラの頭にはしつぽくのソースがかかっているんだい……。オイッ！やんのか、コラッ！

寿美 まあまあ。

利津子 まあまあじゃねえよ、なんだよ、しつぽくのソースって。

寿美 はいはいわかったから。利津子の夢はお嫁さんね。

利津子 はいっ！

寿美 じゃあ緒理恵の夢は？

緒理恵 え？私の夢？

寿美 田中角栄？

緒理恵

そうそう、まあしよのゝって、だから何だよ。無理矢理やらせない
てください。オカシイでしょ。夢が田中角栄って

利津子

全然違うんだよな。もつとこう、んまあしよのゝ。

寿美

もういいからっ。

緒理恵

もはや誰だかわかんないわ。

利津子

田中安兵衛です。

二人

誰よっ！

利津子

いいから続けましょうよ。

寿美

あんたが脱線させてんでしょっ！

利津子

そんな目くじらたてないで。せつかくの美人が台無しですよ。ツンツ
ン。

寿美

ツンツンじゃないわよ。つたく……。

利津子

ホラホラ、緒理恵ちゃんの夢はなに？

緒理恵

え？……あゝそうね。いやでもやっぱりこの歳になって夢って言われ
ても。

寿美

あゝじゃあさ、じゃあさ、小さい頃の夢は？

緒理恵

あゝそれならありますよ。私の小さい頃の夢。

利津子

大きくなりたい？

緒理恵

そうそう。いつかは日本中の女どもを見下ろしてやりたいなんてね。
はは……いいの？私、舞台上で泣くよ。

寿美

余計なチャチャ入れんじゃないよ。利津子、緒理恵に謝りな。

利津子

(何か気に触るボケをカマス)

緒理恵

あんた私の事バカにしてんでしょっ！

寿美

落ち着いて、緒理恵、落ち着いて。

利津子

だからもういいから早く言いなさいよ。あんたの小さい頃の夢は何？

緒理恵

……スチユワードス。

二人

ええ？

緒理恵 えへ。まあ、所詮夢ですから。飛行機に乗ってね。お客様にアテンションプリーズ、アテンションプリーズ、ビーフ or チキンなんつってね。

寿美 貧乏の飢饉？

緒理恵 ビーフ or チキン。

利津子 諏訪です。

緒理恵 諏訪ですじゃない、スチユワーデスっ！という耳してんのよ。

利津子 はいはい、お疲れ様でした。

緒理恵 ちよつとっ！

利津子 もういいから、最後は姐さんですよ。

寿美 え？

利津子 ちゃーんとお膳立てしておきましたから。

緒理恵 いいな、いつでも姐さんがおおトリですよ。

寿美 ちよつと、ちよつと……。

利津子 聞いてください、寿美姐さんの幼い頃の夢。

緒理恵 なんでスーパールのレジ打ちに憧れたのか。

寿美 おいつ！

利津子 え？

寿美 え？じゃないよ。どうしてアタシの夢がスーパールのレジ打ちなんだい。

緒理恵 だつて姐さん、いつも言ってるんじゃないですか。

利津子 恋はいつでも命がけ。

緒理恵 人生はいつでも打算的。

寿美 もういいよ。

『春よ、こころ』の音楽。

エピソード。

鳴る事のない電話を前に、鳥居の上着を手にして一人、物思いに耽っている
利津子。そこへ、緒理恵が入ってくる。

緒理恵

あれ？どうしたのりっちゃん。まだ帰らないの？

利津子

え？……あん、うん。

緒理恵

な〜に物思いに耽ってるのよ？（鳥居の上着を見つけ）あ。な〜に？
どうしたの。まさかりっちゃん……。

利津子

違うの、違うの。ホントよ。そういうのじゃなくて……何て言うのかな。
トリオさんを懲らしめる為にこの数日色々手の込んだ芝居をうつたじやない？でもね……なんか……楽しくったの。毎日のように電話がかかってきてさ、他愛もないお喋りして、ご飯食べて、お酒飲んで
トリオさんが……あんなに優しい人だったなんて知らなかった。

緒理恵

あ〜、あの優しさがね〜、罨なのよね〜。

利津子

ふふふ……なんか余裕のある発言ね。

緒理恵

え？

利津子

そりゃそうよね。アタイなんかよりずっとトリオさんの事知ってるんだもん。

緒理恵

りっちゃん？ダメよ。元付き合ってた女が言うんだから間違いない。
あんな男絶対にダメ。

寿美、通用口から登場。

寿美

あたしはそうは思わないけどな。

緒理恵

姐さん？

寿美

元の元、付き合ってた女の意見は違う。いい男よ、トリオさんは。それは間違いない。

緒理恵

ちよつと姐さん、何て事いいますか？

寿美

女の恋は芸の肥やして言うだろ。色んな男を経験しなきゃ。

緒理恵 ダメよ、りつちゃん。姐さんの言う事なんて絶対聞いちゃダメ。

利津子 そういう緒理恵ちゃんはどうだったの？

緒理恵 え？

利津子 この数日、お芝居とはいえ久しぶりにトリオさんと寄りを戻したんでしょ。

緒理恵 まあ。

利津子 どうだった？

緒理恵 そんな、どうだったって(ため息)……確かに。私も、久しぶりにトリオさんと話して、あの人の魅力を再確認したっていうか……なんか一緒にいるだけで癒されちゃうのよね。こう、フワッと引き寄せられちゃうっていうか。

利津子 わかるっ！ム、ム、ム、ムラムラしてくるんでしょ？

緒理恵 ムラムラはしてこない。

利津子 じゃあモリモリ？

緒理恵 違うっ！

寿美 ドキドキでしょ。

利津子 え？

寿美 ドキドキするのよ。トリオさんとなると。ね？

緒理恵 ……いや、ドキドキとも違いますね。

寿美 違うんかいっ！

利津子 え？だから、ムラムラでしょ？

緒理恵 違うって。

寿美 同じようなもんでしょ。

緒理恵 一緒にしないでください。

利津子 じゃあやっぱアレだ……恋の法則は、十人十色。ね？落ちてる鯖食べないわよ。

三人、微笑み合う。

寿美が『ゴンドラの唄』を歌い始める。
徐々に加わり、三人で。

♪いのちみじかし 恋せよおとめ
あかきくちびる あせぬまに
熱き血潮の 冷えぬまに
あすの月日の ないものを

♪いのちみじかし 恋せよおとめ
いざ手をとりにて かの舟に
いざ燃ゆるほほを 君がほほに
ここには誰も 来ぬものを

♪いのちみじかし 恋せよおとめ
波にただよう 舟のように
君が柔手(やわて)をわが肩に
ここには人目の ないものを

♪いのちみじかし 恋せよおとめ
黒髪のいろ あせぬまに
心のほのお 消えぬ間に
きようはふたたび 来ぬものを

寿美 さつ、帰ろう。一杯奢るよ。

緒理恵 またビーナスですか？

寿美 蓬庵で掻き揚げでもつまみながらやるかい？

緒理恵 おつ、いいですね。

利津子 ねえ緒理恵ちゃん、ソロデビューの話があつたてのは本当なんですよ？

緒理恵 ええ？うーん、まあ。でも総支配人がしつこく迫ってくるから……。

利津子 ええ、ウソ、断ったの？

寿美 アタシが止めときなつて言ったのよ。そんな形でデビューしたって何の意味もない。あんたにやそのうちアタシが、ちゃんと信用のできるレコード会社紹介してやるから。

緒理恵 よろしくお願ひします。

利津子 ええ、いいな緒理恵ちゃんだけ。アタイは？

寿美 あんたは一人じゃ生きてけないでしょ？

利津子 御意。ん？……やだ、こんな所に鯖が落ちてるわ。

寿美 拾うんじゃないわよ。

三人ワイワイと退場。

誰も居なくなつた楽屋で電話が鳴る。

もの凄い勢いで戻ってくる三人。

よたび醜い争いが始まるのです。

おわり